

<陳述書（抜粋）>

私が物心付いた頃には父親は信仰を失っていました。教会内の人間関係に躓き、本当の愛はここにはないと失望を抱えながら父は教会を離れたそうです。重い病気、飲酒、ギャンブル癖のある祖父に、信仰を隠しながら献身的に世話していた母は、祖父と父の目を盗んで私と妹たちを教会へ連れて行きました。私は幼い頃から家庭連合の信仰を持たない人間と信仰を持つ人間を常に比較しながら生きてきました。

信仰を相続して欲しいという母からの切実な気持ちは感じていましたが選択する権利は飽くまで私にありました。二つの世界を交互に見ながら抱いた率直な感想は、「信仰を持たずに生きる方が楽しくて気楽だけど、神様を信じていた方が幸せになれるそうだ。大変だけど清らかで善い人間に私はなりたい。」でした。家族の中で疎まれる存在、隠れ統一信者になることを自ら選び、こっそりと教会に通いました。

現在は週五で会社勤めをしながら休日は教会奉仕をする生活をここ六年程しております。現在は三歳になる子供の育児もしつつ副業でイラストレーターもしているので忙しい日々ですが、同居している夫と義母に支えられながら円満に生活しております。

幸せに暮らす私たちを見て父も「教会には思う所もあるが、良い妻を与えられた事、娘たちが幸せそうな姿を見るとやはり祝福は素晴らしいものだと思う」と言ってくれています。妹も職場でのストレスから鬱を患っていましたが私が教会に誘い、一から教義を学び、二世信者と一緒に暮らし、愛され、神様を愛するようになりました。そして去年祝福結婚を受け、今は幸せに暮らしています。

もし教会が無くなってしまったらと思うと正直不安でたまりません。結婚・夫婦生活・出産・子育てや教育・葬儀…人生のあらゆる局面で教会に集い、教義から学び、祈ってきました。アイデンティティにまつわる思い出の場所が無くなり、子供と自分が人生の根幹に関わる行事を行う場が無くなるということは、職場や家から急に追い出されるかのような恐怖があります。

実際初めて生後四ヶ月の娘を保育園に入園させる際、同居家族の職場を記入する必要があったのですが、義母が家庭連合職員であることを記入したら、入園を取り消されたり虐められたりしないだろうかと不安で記入を躊躇いました。幼い子どもたちが自分の出自を安心して言えない日本になって欲しくない切実に願っています。

教会側が本当に真摯な対応をしているのか、解散に値するほどの行為があったのかということも当事者であるはずの信者は正確に分かりません。何もできないもどかしさを抱えて生きてきた三年間でした。二〇二二年当時はニュースを見るのが怖くて、テレビを消して、生まれたばかりの我が子を抱いて泣いておりましたが、自分が人生を賭けて信じると決めた道が誤っていたと国から断じられるような状況ならば、せめてこの目で直接真実を見て、真正面から受け止めたいと思っております。